

議員（村井 保夫）

おはようございます。

8番 村井 保夫、それでは一般質問に入ります。

幼稚園、小学校の統廃合の問題です。

戦後、私たちの時代は第1次ベビーブームがあり、貧しい生活の中で大勢の子供達へ学校は子供達で溢れていましたが、高度成長、バブル時代となり、仕事また生活に追われ、また時代も変わり、第2次ベビーブームが起きませんでした。そして、近年、少子・高齢化が進み、人口が減少し始めています。行政も人口が減少するということを前提として、各種の政策を考え直す必要が出てきていると思います。

教育関係においても、急激な少子化の進行に対応して、幼稚園、小学校の統廃合について検討する必要があるとあり、近隣の市町においても、実際に統廃合が進められています。先の6月議会でもこの問題が取り上げられ、幼稚園を4園から1園に再編するとの答弁がありました。その中で、多度津町教育課題検討委員会の答申の中では、2020年開園を目標とすることが望ましいとされている中で、6月議会においての議員の質問では、幼稚園の再編について具体的な内容が答えられていませんでした。再編の時期を何年後に目標を置いていくのかをお伺いいたします。

まず、幼稚園の方から行きたいと思います。よろしく申し上げます。

教育長（田尾 勝）

村井議員の幼稚園の再編時期の目標についてのご質問に答弁させていただきます。

本町の幼稚園、小学校の適正規模及び適正配置に係る取り組みにつきましては、平成28年に多度津町教育課題検討委員会を設置し、協議を重ね、昨年3月に教育委員会に、将来にわたって多度津の子供達とともに育つ教育環境を確保するためとして答申がなされました。教育委員会は、その答申を受け、内容については吟味検討し、幼稚園、小学校の再編整備の基本方針を昨年、策定しました。

幼稚園の基本方針の主な内容としては適正配置として、現在の4園から1園に再編する。また、再編の時期については、検討委員会答申においては、園児数の将来予測から2020年度開園を目標にすることが望ましいとされているが、再編整備に当たっては、新設または既設園拡張といった整備方法によって必要な期間が異なることにより、2020年度開園は難しい状況にあることから、速やかに再編に向けた準備に着手し、早期に開園できるように最大努力するとしています。

教育委員会といたしましては、基本方針のとおり、早期に開園できるように最大限努力してまいります。新設または既設園拡張といった整備方法によって必要な期間が異なることもあることから、整備の方法を決定するために、教育環境や財政面も勘案し、どの整備方法が望ましいのか協議をするための資料を作成中であり、整備方法が決定していない状況の中で、具体的な再編の時期をお示しすることはできません。整備方法の決定までの過程におきましては、議員の皆様からのご意見をいただくことはもち

ろん、住民の皆様にも丁寧にご説明するなど行ってまいろうと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

再編の方法ですが、先ほどお答えがありました。

これから、その後の教育課題検討委員会の開催予定、またはその他の意見がありましたらお聞かせ下さい。

教育長（田尾 勝）

議員からの再質問にお答えさせていただきます。

教育課題検討委員会の答申はいただいて、教育委員会あるいは答申の結果については議会にもお知らせしているところであります。今後、今のところ、教育課題検討委員会を再開するという計画は、今のところ、ございません。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

先ほどの答弁の中で、財政状況も勘案しとありましたが、前回の6月議会の答申の中で、幼稚園の再編が10年延期された場合の相対的経費について、4園を存続させた場合の人員費は合計9億9,000万円、それに対し1園とした場合は8億9,000万円、光熱費等の関連費が4園の場合は1億4,000万円、1園の場合、6,500万円程度と想定しているとお答えいただきました。そういう中で、少しでも早くやれば、2億円近い経費が削減できます。そういう中で、財政危機があるかも分かりませんが、少しでも早くやっていって、経費削減を図っていくのも一つの方法ではないかと思えます。いかがでしょうか。

町長（丸尾 幸雄）

村井 保夫議員の再質問にお答えをしております。

いつも私が申し上げていることを繰り返し述べるようになってしまいますけれども、私の行政運営の根本的なことは財政の健全化です。財政が健全化をしてないと何もできないと思っております。もう何年も前に、5年も6年も何もできない時代がありました。そのことを繰り返してはいけないというのが、私の頭の中に常に入り込んでおります。それは、まずは今、役場庁舎とそれから福祉センターの建て替えというのを優先事項として行っております。これは、災害に強い安心・安全なまちづくりの中で、やはり優先すべきことだと考えております。まずは、優先順位を決めて、事業施策を行っていく、その中で財政の健全化を常に図っていくということで、私の町長に就任させていただいてからの考えであり、やり方でありますので、まずは財政がどうなっていくかということのある程度の見通しはできてないと、今、村井 保夫議員おっしゃったように、節約にはなるかも分かりません。おっしゃったように、今やれば節約になるかも分かりません。しかし、今やるとしたら、莫大なお金がかかります。そのお金を借金をしなければいけないということ。そうすると、いつも財政指標、4つの財政指標、中でも2つです

ね、将来負担比率とそれから実質公債費比率、これは常に頭の中に入れて、そしてもう一つは財政調整基金です。貯金ですね。これは頭に入れて、財政運営を行っていかないと、また昔のような財政が非常に困窮をして、町民の皆様にご迷惑をかける、叱られる、そのような事態を引き起こす可能性もありますので、そういうことがないように、今、石橋を叩いて渡るわけではありませんが、慎重に財政運営というのを常に念頭に置いてやっております。その中では、優先順位というのを、先ほど申しましたように、優先順位を決めて、事業施策を行っております。その中におきましては、やはり今優先順位が高いのは、一番高いのは、いつ起こるか分からない地震に備えることだと思っています。それは、役場庁舎と福祉センターの建て替えだと思っています。今、小学校及び幼稚園、4つの小学校、4つの園ともに耐震補強はできております。ですから、大きな地震には耐えられるだけの耐震補強はしておりますので、その中で、小学校の場合は4つの小学校ともにエアコンの設置もしております。教育環境の充実を図るということにおきましては、小学校も幼稚園も近々の課題ではないのではないか。ただ、これからの将来の教育環境の充実を考えていきますときに、この問題は大きな問題であります。その中で、早いうちから町民的な課題として町民全体での、皆さん方にお考えをいただく。子供は多度津町の宝でありますので、その宝である子供達の教育環境はどうしても充実していかなければいけません。それは町民皆さん方の課題であると思っていますので、その中で財政が健全化なんだということの多少の証でもあれば進めていきたいと思っています。まず、それよりか前に、まずどこに建てるのか、どのようなことにするのか、幼稚園にしましても、今、普通の幼稚園なのか、こども園なのか、そういうこともありますので、まずはそのことを町民全体の課題として町民の皆様方と話をしていく。私ども行政また議員の皆様、教育委員会、PTA、そういうような学校関係、そういうような方々と町民の皆さん方との話し合い、議論が、まずはそれが先決ではないのかなと思っています。そのことには時間を多少割いても、これは町民皆さん方の大きな課題になりますので、それは十分に十分に議論をしていただきたいと思います。願っております。

答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

いつも町長から先ほどの意見はお聞きしておりますが、議員の方々からのこれほどの質問があるということは、それだけやはり緊急性があると思います。できるだけ早く町長の方も財政健全化を図り、経費が節約できるのであれば、早い方向で進んでもらいたいと思っています。幼稚園、小学校の統廃合は、1日、2日ではできません。5年、10年というスパンがあります。そういう中で今からでも始めていかなければ、急ぐ間に合わないと思います。その辺をよろしくお願いして、今回、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。